

# ひととピープル

「救急隊員の迅速さが印象的だった。見習いたい」と話すのは、ブータン政府保健省のサルバジット・チエトリさん(28)＝写真。国際医療ボランティアAMDA(岡山市北区伊福町)の仲介で、1月28日から2月1日まで市消防局で実習生として研修を受けた。

## 岡山の救急見習いたい



かを学んだ。

市消防局は2010年、ブータンに救急車1台を寄贈。首都ティンプーで唯一の大規模病院に配備されている。「装備の質、量とも充実している。岡山の救急

車があったから助かった事例がいくつもある」心肺蘇生機器の説明書や心電図モニターの表示は全

ンの救命士に伝えるため、帰国後は研修会を開く予定だ。

ブータンには120台の救急車があるが、未舗装の道路を走るなどして4分の1は故障し、郊外の救急車は酸素マスクなど最低限の装備しかなく、「日本で余った車両があればぜひ寄贈してほしい」と呼び掛ける。

贈。首都ティンプーで唯一の大規模病院に配備されている。「装備の質、量とも充実している。岡山の救急

人材育成も課題。救命士は全国で60人、首都に限ると3人という。「岡山と友好関係を築き、研修を受けられるようにしたい」

充実している。岡山の救急

(藤田勝久)